

POUR-OVER BEATS コーヒーべーと

itaru wakui



みなわせ、ひやぶるとなりました collective くもハレル。今回は

ふたつの点でこれまで以上に特別な

集いに感じます。ひとつには世を席巻する「ロナド・ハメガーティフ」な要因。かたやものかひとつともボジティイブな意味。やつです、KMA a.k.a. KENGOMATSUI の「ローマリース」を祝ぐためのパーティーだからです。

緊急事態宣言が解かれる頃、われわれメンバーはみなさんよりも一足先にレコードを受け取りました。しばらく家で音楽を聴くことも少なくなっていましたわたくしは「新譜なんていつ以来だらり」と思ってながらた。やつて、「NIGHT IN AKASAKA」など凭依する「POUR-OVER BEATS」を何周も回り続ける

街や通りの夕前を使いつぶす。それで佐藤さんが阪神間モダニズムを感じたところのも、おやじく都市の情景とともにあぬ音楽ところへいを挿してくるのでもう。とにかくこんな音がなっていた。名選手のオリジナル入場テーマ曲はむかつく、イメージソングやレスナー自身が歌うやかく曲作りのひとつのかつかけひとつ重要なんだわると感じます。B-1 「MIDNIGHT IN AKASAKA-MITSUKE」など曲があります。わたしには赤坂見附は未踏の土地です。どんな街か知りません。でもこの曲がイメージのきっかけを与えてくれます。

街へ繰り出しうつむく、ぶらぶら集うただそれだけのことができるないだけ、音楽を聴くひとの気持ちがどんどん磨り減っていくんだな」ということをしみじみと実感せられる日々。そこから脱するためのリハビリとしてわたしにとってこれは最適のアルバムはなかつたでしょう。最後にあらためて「ローマリースおめでとば、KMA。」



プロレスラー

楠田行展

最近、プロレスにまつわる「ノード」を買つことが多い。各選手のオリジナル入場テーマ曲はむかつく、イメージソングやレスナー自身が歌うやかく曲作りのひとつのかつかけひとつ重要なんだわると感じます。B-1 「MIDNIGHT IN AKASAKA-MITSUKE」など曲があります。わたしには赤坂見附は未踏の土地です。どんな街か知りません。でもこの曲がイメージのきっかけを与えてくれます。

僕はプロレスが好きで、1990年代、テレビ中継を熱心に観戦し流れを追つてた。press collective でも三沢光晴さんがリング禍ドリルになつたときや、「絶対王者」「鉄人」と言われた小橋建太選手が引退した際には記事につづいた。2人はジャイアント馬場さんの団体、全日本プロレスを90年代に支えた名選手である。三沢、小橋に川田利明、田上明の2選手を加えた「全日本プロレス四天王」は当時、激しく高度な試合展開でプロレスファンを魅了した。個人的には鋭い蹴り技が持ち味の川田利明が大のお気に入りで、全日本天王にはたくさんの勇気をもひつた。

僕がテレビ中継を見ていないうち以前のプロレス界と、音楽業界の関係性について少し振り返つてみた。やつて、「NIGHT IN AKASAKA」など凭依する「POUR-OVER BEATS」はわがSL 1200MK3 上を何周も回り続ける「NIGHT IN AKASAKA」になつました。KMA の楽曲は都市のイメージと

街や通りの夕前を使いつぶす。それで佐藤さんが阪神間モダニズムを感じたところのも、おやじく都市の情景とともにあぬ音楽ところへいを挿してくるのでもう。とにかくこんな音がなっていた。名選手のオリジナル入場テーマ曲はむかつく、イメージソングやレスナー自身が歌うやかく曲作りのひとつのかつかけひとつ重要なんだわると感じます。B-1 「MIDNIGHT IN AKASAKA-MITSUKE」など曲があります。わたしには赤坂見附は未踏の土地です。どんな街か知りません。でもこの曲がイメージのきっかけを与えてくれます。

僕はプロレスが好きで、1990年代、テレビ中継を熱心に観戦し流れを追つてた。press collective でも三沢光晴さんがリング禍ドリルになつたときや、「絶対王者」「鉄人」と言われた小橋建太選手が引退した際には記事につづいた。2人はジャイアント馬場さんの団体、全日本プロレスを90年代に支えた名選手である。三沢、小橋に川田利明、田上明の2選手を加えた「全日本プロレス四天王」は当時、激しく高度な試合展開でプロレスファンを魅了した。個人的には鋭い蹴り技が持ち味の川田利明が大のお気に入りで、全日本天王にはたくさんの勇気をもひつた。

僕がテレビ中継を見ていないうち以前のプロレス界と、音楽業界の関係性について少し振り返つてみた。やつて、「NIGHT IN AKASAKA」など凭依する「POUR-OVER BEATS」はわがSL 1200MK3 上を何周も回り続ける「NIGHT IN AKASAKA」になつました。KMA の楽曲は都市のイメージと

Share the Light 照る五輪盤アホーム



テーマ「一」はコルゲン・バハムの鈴木宏昌が作ったもの。坂本龍一らが作った「カクトウギのテーマ」は全日本プロレスで使用されただし、スタン・ハンセンの「サンクライズ」は新田一郎率いるスベクトラムの楽曲で、平沢進が異母犯抄の名義で長州力の「パワーホール」を（嫌々）作曲したのは有名なエピソードだ。往時、プロレス界で時代感を反映した楽曲が使用されたのは、上り調子のプロレス界と、時代そのものの勢いが正比例していたからと見ていい。

プロレス界はその後、テレビ中継が深夜枠に移行した90年代、総合格闘技の台頭により人気が低迷した2000年代、オカダ・カズチカラが人気レスラーが牽引して「プロ女子」を生み出し人気を回復した2010年代を経て現在に至る。「ロナド禍の時代」は記事につづいた。2人はジャイアント馬場さんの団体、全日本プロレスを90年代に支えた名選手である。三沢、小橋に川田利明、田上明の2選手を加えた「全日本プロレス四天王」は当時、激しく高度な試合展開でプロレスファンを魅了した。個人的には鋭い蹴り技が持ち味の川田利明が大のお気に入りで、全日本天王にはたくさんの勇気をもひつた。

僕がテレビ中継を見ていないうち以前のプロレス界と、音楽業界の関係性について少し振り返つてみた。やつて、「NIGHT IN AKASAKA」など凭依する「POUR-OVER BEATS」はわがSL 1200MK3 上を何周も回り続ける「NIGHT IN AKASAKA」になつました。KMA の楽曲は都市のイメージと

街や通りの夕前を使いつぶす。それで佐藤さんが阪神間モダニズムを感じたところのも、おやじく都市の情景とともにあぬ音楽ところへいを挿してくるのでもう。とにかくこんな音がなっていた。名選手のオリジナル入場テーマ曲はむかつく、イメージソングやレスナー自身が歌うやかく曲作りのひとつのかつかけひとつ重要なんだわると感じます。B-1 「MIDNIGHT IN AKASAKA-MITSUKE」など曲があります。わたしには赤坂見附は未踏の土地です。どんな街か知りません。でもこの曲がイメージのきっかけを与えてくれます。

僕はプロレスが好きで、1990年代、テレビ中継を熱心に観戦し流れを追つてた。press collective でも三沢光晴さんがリング禍ドリルになつたときや、「絶対王者」「鉄人」と言われた小橋建太選手が引退した際には記事につづいた。2人はジャイアント馬場さんの団体、全日本プロレスを90年代に支えた名選手である。三沢、小橋に川田利明、田上明の2選手を加えた「全日本プロレス四天王」は当時、激しく高度な試合展開でプロレスファンを魅了した。個人的には鋭い蹴り技が持ち味の川田利明が大のお気に入りで、全日本天王にはたくさんの勇気をもひつた。

僕がテレビ中継を見ていないうち以前のプロレス界と、音楽業界の関係性について少し振り返つてみた。やつて、「NIGHT IN AKASAKA」など凭依する「POUR-OVER BEATS」はわがSL 1200MK3 上を何周も回り続ける「NIGHT IN AKASAKA」になつました。KMA の楽曲は都市のイメージと